

第9章 地域区分と保存活用重点区域の設定と方針

市内には、全国から注目される歴史文化資源や、特定のエリアに歴史文化資源が集まっている場所があります。こうした場所の中から、特に力を入れて取り組む所を決めて「保存活用重点区域」とします。



1 保存活用重点区域の設定と保存・活用の方針



それぞれのエリアをなぜ「保存活用重点区域」とするのか、区域内の歴史文化資源の様子と、守り、使っていくためには、どのような問題があるのかを整理しました。そして、問題を解決するために何をしたらよいのかを考えます。

第6章第4節において歴史文化資源を保存・活用するための地域区分を「伊那地域(旧伊那市)」、「たかとおまち高遠町地域(旧高遠町)」、「はせ長谷地域(旧長谷村)」の3地域に分けましたが、3地域の中には、それぞれに重要な歴史文化資源が集中する区域があります。保存・活用事業を効果的に進めるため、これらの区域を「保存活用重点区域」として保存・活用を重点的に進めていく区域とします。ここで設定する保存活用重点区域は、文化庁が示す「文化財保護法に基づく文化財保存活用大綱・文化財保存活用地域計画作成等に関する指針」(令和5年3月)における「文化財保存活用区域」にあたるものです。

保存活用重点区域の設定に際しては、以下の観点を考慮しました。

- ① 特定の歴史文化資源が集中し、市民による歴史文化資源の保存・活用が進んでいる区域。また、保存・活用が進むことが期待される区域。
- ② 指定等文化財が集中していることに加えて、中心となる歴史文化資源を核として、広く文化的な空間を創出できる環境がある区域。
- ③ 市民が地域の伝統的な活動や行事・祭礼などを執り行うだけでなく、地域学習や観光振興などの目的で利活用することを想定した区域。
- ④ 保存のための取組が、早急に必要とされる歴史文化資源が集中的に存在している区域。

2 伊那地域の保存活用重点区域

2-1 伊那地域の重点区域1

伊那(竜西)・伊那(竜東)・富県・東春近・西春近地域の古墳群

(1) 区域の概要

かつて、伊那市域には、上伊那の古墳の6割が集中していました。しかしその後、戦後の開発などで古墳の破壊が進んでしまいました。それでも現在伊那市には約90基の古墳が遺っています。

その中でも、伊那(竜東)・東春近地域の天竜川左岸段丘上には、70基以上の古墳が南北にわたり良好な保存状態で分布し、築造当初の様子をそのままに伝えています。数々の古墳が段丘上の眺めの良い場所に並ぶ姿は、壮観な景色です。また、市内でこれまで発掘調査された古墳が数少ない中、伊那(竜西)地域・富県地域には、古墳時代の出土資料が豊富に遺っています。

平成27年(2015年)には、地元小学校の児童達が東春近地域にある老松場古墳群の中で前方後円墳を発見し、その後の大学研究室の調査により南信地方では最古級、長野県内でも比較的古い前方後円墳であることが判明しました。また、この老松場古墳群の中の円墳の発掘調査によって、これまで古墳時代後期以降の築造とされていた古墳が、古墳時代中期に造られたものと分かりました。

多くの古墳が存在する伊那市域でしたが、戦後に発掘調査された古墳は4基のみで、これまでの資料だけでは、伊那市の古墳時代を通史的に述べることはできませんでした。しかし、近年の調査によって、少しずつ市域の古墳時代解明の材料がそろいつつあり、また市域の古墳築造年代の見直しの必要性も出てきました。



(2) 区域内の歴史文化資源

歴史文化資源 〈歴史文化資源の類型〉	歴史文化資源が 存在する地域	歴史文化資源の概要
伊勢並古墳群 〈記念物・遺跡〉	伊那(竜西)西町	3基の古墳からなる古墳群。狐塚南古墳からは市指定有形文化財の、金メッキされた馬の装飾品(杏葉)が出土。八人塚古墳では、2か所に側室を持つ横穴式石室がみつかった。
【市】杏葉 〈有形・考古資料〉	伊那(竜西)西町	狐塚南古墳出土、金メッキされた素晴らしい馬具(馬の装飾品)。
福島・野底・上牧・古町古墳群 〈記念物・遺跡〉	伊那(竜東)	伊那(竜東)地域、天竜川左岸段丘上に所在する古墳群。帆立貝形古墳、大型の円墳、低墳丘の円墳で構成される。上牧古墳群を見上げる段丘の下に、古墳時代の住居址2軒がみつかった柴垣外遺跡があり、古墳群下に集落が広がっていたことがわかる。
福地古墳群と出土品 〈記念物・遺跡〉	富県北福地・南福地	上伊那唯一の方墳や、馬の生産に関わった人々の古墳群。現在は壊されてなくなってしまった如来堂古墳からは、長野県内で最古級の馬具(轡)が出土しており、伊那・飯田に県内で最も早く、馬の文化が入ってきたことがわかる。

歴史文化資源 〈歴史文化資源の種類〉	歴史文化資源が 存在する地域	歴史文化資源の概要
天神山古墳 〈記念物・遺跡〉	美簗笠原	明治 32 年(1899 年)、美簗村の人々が石を取るために掘削した際に、偶然に発見された古墳。石室の中には被葬者の骨のほか、直刀、鉄鍬、メノウの勾玉、須恵器、土師器などが出土した。地元住民により毎年 5 月に、供養が行われている。
手良の古墳群と十三塚 〈記念物・遺跡〉	伊那(竜東)手良	手良地域には、すでに破壊されてしまった古墳も多いが、新たに確認できた古墳(塚) 2 基と、林の中に 10 基からなる十三塚がある。
老松場古墳群 〈記念物・遺跡〉	東春近中組	8 基の古墳からなる古墳群。地元有志が公園整備をする中で、東春近小学校児童達が前方後円墳を新たに発見した。長野県の古墳時代に新たな 1 ページを加えた。
東春近の古墳群 〈記念物・遺跡〉	東春近	天竜川左岸の段丘先端には、古墳が多数造られた。眼下を一望できる段丘上は、支配者の墓地にふさわしい場所である。未だ発見されていない古墳時代の集落が、段丘下で発見される可能性が高い。
東春近の十三塚 〈記念物・遺跡〉	東春近	昭和 47 年(1972 年)刊行の『東春近村誌』に載っていたが、その後、忘れさられていた遺跡。72 基の塚を再確認した。用途不明の十三塚の貴重な事例が増えたことで、今後の研究に期待できる。
西春近の古墳群 〈記念物・遺跡〉	西春近	白沢古墳群では東西に 4 基の古墳が並ぶ。そのうち 2 基は大正時代に調査され、1 基は中央自動車道の工事の際に調査がされた。発掘調査の事例が少ない市内古墳の中で、唯一、その全貌がわかる古墳群。
白沢古墳群出土品 〈有形・考古資料〉	西春近	大正 14 年(1925 年)に発掘調査された鎮護塚東古墳からは、長大な鉄刀、碧玉製の勾玉や管玉、水晶製の勾玉が出土している。昭和 47 年(1972 年)に発掘調査された名廻東古墳からは、鉄刀、鉄鍬、金環、須恵器、土師器、紡錘車出土している。古墳時代の資料が少ない伊那市における、貴重な出土品。

(3) 保存・活用の課題

この区域では、近年の古墳分布調査により新発見された古墳や、中世の遺構である十三塚(旗塚)が新たに 70 基以上、存在することが確認できました。しかし、これらの歴史文化資源が集中する地域として、その全体像や価値が、地元を含め市民には周知されていません。また、周知がなされていないことから、損壊の危険があります。



みやのうへふんぐん
宮ノ上古墳群 分布調査の様子

(4) 保存・活用の方針

・古墳群の周知

古墳の破壊を防ぐため、分布調査や測量調査を行い、その結果を文化財地図やパンフレットにまとめて公表したり、古墳群ごとに説明看板を設置したりするなど周知に努めます。

また、これまで埋蔵文化財包蔵地となっていなかった十三塚も、調査・研究を行い、成果を周知していきます。

・展示による情報公開、発信

伊那市創造館や公民館に、古墳時代の展示スペースを設け、最新の調査成果や情報の公開、発信に努めていきます。



伊那市創造館で行われた
古墳の特別展示

・現地公開

古墳群を周辺環境と一体的な景観として捉えて、^{だんきゅうがい}段丘崖や山の自然環境と歴史景観を総合的に保存・活用するとともに、地域の魅力として発信して、地域全体の歴史の理解が深まるような現地公開を進めていきます。



ろうしょうばこふんぐん
老松場古墳群 現地説明会の様子

(5) 区域内の保存・活用に関する措置

番号	事業項目	事業内容	新規 継続 の別	計画期間			取組主体				主な 財源
				前期 R 7 ～ 10	中期 R 11 ～ 13	後期 R 14 ～ 16	市民・ 所有者	企業・ 団体	教育 研究	行政	
伊那1-1	古墳分布調査	市内古墳の分布調査、測量調査を実施する。	継続						○	◎ 教生	市費
伊那1-2	古墳群の映像記録作成と公開	古墳群の立地や景観をドローンで広範囲に撮影、記録し、データをWeb公開する。	新規							◎ 教生	市費
伊那1-3	古墳紹介マップの作成	点在する古墳群の一体的な活用を進めるため、概要や見どころや周遊ルートを紹介したマップなどを作成し、Web公開や市内施設で配布する。	新規					○		◎ 教生	市費
伊那1-4	古墳群への案内板、説明板設置	古墳群の内容や古墳の位置を記した案内板や説明板を設置する。	継続				○	○		◎ 教生	市費

2-2 伊那地域の重点区域2

伊那(竜西)・伊那(竜東)地域の近現代の文化財群

(1) 区域の概要

伊那市域には、近代以降に発展を遂げ、かつての伊那町の中心となった伊那(竜西)地域の坂下区入舟、荒井区通り町や、江戸時代からの街道筋として近代以降も発展を続けた伊那(竜東)地域の中央区本通り(古町)一帯には、近現代の町の発展に伴う歴史文化資源が数多く存在します。

天竜川と並行して通る街道・鉄道沿いに形成された南北 2.5 km の中心市街地の中央に位置する荒井区にある商店街「通り町」には、昭和 24 年(1949 年)の大火を契機に建てられた看板建築が建ち並びます。文化の中心としても栄えたこの区域には、看板建築の町並みの周辺に、大正 2 年(1913 年)に建てられた映画館の旭座や、昭和 5 年(1930 年)に建てられた旧上伊那図書館など、町の発展とともに歩んできた近代建築が良好な状態で遺っています。また、中央区本通り(古町)一帯にも昭和 30 年代に建てられた看板建築が遺っており、市街地再開発によって失われた近代建築が多い中、この区域の町並みは貴重な存在です。

社会環境の変化に伴って客離れが進み、現在は商店街の活性化が地域の課題となっていますが、通り町ではレトロな町並みを活かしたまちづくりの取組が、地域を挙げて行われています。

この区域には昭和 25 年(1950 年)以降変わらない商店街の懐かしい町並みを中心に、伊那電気鉄道入舟駅遺構や天竜川舟着場など、近現代の歴史文化資源が多数遺っています。また、街の発展とともに人々の胃袋を満たしたローメン、ソースカツ丼、馬刺し、おたぐり、昆虫食を提供する店舗も多く、伊那市の特色ある食文化を伝える場所にもなっています。



とお ちょう おうかん
通り町の王冠ネオン
(平成元年(1989年))



どうろ かくふくご ふるまち
道路拡幅後の中央区古町の
看板建築(昭和30年(1955年))

(2) 区域内の歴史文化資源

歴史文化資源 〈歴史文化資源の種類〉	歴史文化資源が 存在する地域	歴史文化資源の概要
入舟の看板建築 〈有形・建造物〉	伊那(竜西)坂下区	明治45年(1912年)、伊那電気鉄道の伊那北、入舟、伊那町駅の開業で、町の繁華街は入舟に移動した。市内で最も古い、昭和9年(1934年)に建てられた看板建築が遺る。
天竜川舟着場跡 〈記念物・遺跡〉	伊那(竜西)坂下区	天竜川では江戸時代文政年間から明治時代末まで、諏訪から浜松の掛塚まで210kmを結ぶ通船が活躍した。その舟着場の跡が遺されている。
伊那電気鉄道(飯田線) 〈有形・建造物〉	伊那(竜西)・西春近	明治時代以降の伊那町の発展を支えた鉄道で、昭和18年(1943年)に飯田線となり、現在はJR飯田線になっている。
伊那電気鉄道入舟駅遺構 〈有形・建造物〉	伊那(竜西)坂下区	伊那市駅から伊那北駅の中間に、昭和18年(1943年)まであった入舟駅のホームや階段の跡が遺されている。
通り町の看板建築 〈有形・建造物〉	伊那(竜西)荒井区	昭和18年(1943年)の入舟駅廃止とともに、町の中心地は伊那町駅に近い通り町に移る。昭和24年(1949年)の大火の後、火災に強い看板建築に通り町商店街は建て替えられた。現在も昭和25年から27年(1950年から1962年)の看板建築が遺る。
【市】旧上伊那図書館 〈有形・建造物〉	伊那(竜西)荒井	製糸業で富を築いた武井寛太郎の寄付で、昭和5年(1930年)に建てられた建物。鉄筋コンクリートを用いた近代建築。上伊那の教育文化の中心地となった。
古町の看板建築 〈有形・建造物〉	伊那(竜東)中央区	古町(中央区の本通り)は、昭和32年から37年(1957年から1962年)にかけて行われた、都市計画事業により道路が広げられ、商店の建て替えの際に、その多くが看板建築となった。現在も銅板葺きの看板建築が遺っている。
伊那旭座 〈有形・建造物〉	伊那(竜西)荒井区	大正2年(1913年)竣工の木造建築であり、全国でも9軒しかない希少な木造映画館の一つ。昭和初期まで芝居興行も行っていたため、その名残のステージと2階の観覧席が遺る。
ローメン 〈民俗・無形の民俗文化財・食文化〉	全域	昭和30年(1955年)頃に生まれた蒸し麺と羊肉、野菜を炒めた食べ物で、市民に愛されるご当地グルメ。
ソースかつ丼 〈民俗・無形の民俗文化財・食文化〉	全域	ご飯の上に、ソースがしみこんだ豚カツとキャベツがのったかつ丼は、戦後、伊那町の飲食店で親しまれ、地域の名物になっている。
馬刺し、おたぐり 〈民俗・無形の民俗文化財・食文化〉	全域	馬が身近だった伊那では、馬刺しや馬のもつ(腸)を煮込んだおたぐりが食べられており、馬刺しは赤身が好まれる。
昆虫食 〈民俗・無形の民俗文化財・食文化〉	全域	蜂の子、イナゴ、ザザムシなど、貴重な珍味として食する。伊那市の特色ある食文化となっている。

(3) 保存・活用の課題

この区域では、建物自体の老朽化に加え、利用客の減少、経営者の高齢化、後継者の不在といった商店街が抱える課題が、建物の保存に大きな影響をもたらします。近年、店舗の閉店に伴い、商店街の中心的存在であった建物が取り壊されるなど、個別建物の保存ばかりでなく、連続する町並みの保存も難しくなっています。建物の保存と商店街の活性化は両輪であることから、商店街関係者と連携した保存・活用を進める必要があります。

区域内の建物の文化財価値を共有した上で保存・活用を進めるには、価値の把握^{はあく}が必要ですが、区域内では建築調査がほとんど行われていません。保存・活用につなげるためにも、区域内にある建物の調査を進める必要があります。

(4) 保存・活用の方針

・看板建築の周知

長野県内で唯一残る貴重な銅板葺きの看板建築2軒をはじめ、町並みの成り立ちや看板建築という特色ある建物の存在を、多くの人に知ってもらうための周知を行います。

・近現代建築の調査・研究の実施と成果の共有

看板建築やその他の特徴的な近現代建築の調査・研究を進め、得られた成果を市民の皆さんで共有します。

・商店街や構成する看板建築の利活用

看板建築が建ち並ぶ商店街の景観や建物を利用して行われる、まちおこしのイベントを積極的に支援します。また、町並みやその歴史見学会などを開催します。

・文化施設の連携

看板建築の町並み周辺には、伊那市創造館(旧上伊那図書館)、伊那市立伊那図書館、生涯学習センターいなっせ、長野県伊那文化会館といった文化施設が集中しています。これらの施設と連携して文化活動を行い、多くの人が行き交う町並みを目指します。



伊那市創造館で行われた
伊那まちの今昔を紹介する



バラで彩られた
通り町商店街の様子

(5) 区域内的の保存・活用に関する措置

番号	事業項目	事業内容	新規 継続 の別	計画期間			取組主体				主な 財源
				前期 R7 5 10	中期 R11 5 13	後期 R14 5 16	市民・ 所有 者	企 業・ 団 体	教 育 研 究	行 政	
伊那2-1	近現代建築調査	所有者の協力を得ながら、間取り図等の作成、外観・内部の記録調査を行う。	新規				○	○	○	◎ 教生	市費
伊那2-2	近現代建築に関する展示の実施	多くの人と町並みや建築の価値を共有するため、近代建築をとりあげた展示を実施する。	新規				○	○	○	◎ 教生	市費 団体等 個人
伊那2-3	まちおこしイベントへの支援	看板建築が建ち並ぶ商店街の景観や建物、特色ある食文化を利用して行われるまちおこしイベントを支援する。	継続					◎		◎ 商観	市費 企業 団体等
伊那2-4	町並みの歴史見学会の実施	商店街や構成する看板建築の利活用につなげるため、看板建築や周辺の近現代文化財群を巡る見学会を開催する。	継続				○	○		◎ 教生	市費

3 高遠町地域の保存活用重点区域

高遠地区(高遠城と城下町周辺)

(1) 区域の概要

高遠町地域は、平成の市町村合併以前の旧高遠町の町域で、地域内は5つの行政区に分かれています。そのうちの高遠地域(西高遠・東高遠)は高遠城とその城下町を基盤として発展した地域です。中世以来の門前町に始まり、戦国時代以降は高遠城を中心としたまちづくりが行われました。物資や文化の集積・中継地となった城下町を拠点に各地に向かう街道が走り、街道筋にも多くの歴史文化資源が見られます。近代以降は旧城下町を中心に市街地が形成され、近年には城下町の周辺部に配置された寺社や街道筋の石造文化財を活かした観光施策のほか、城下の面影を活かした街路整備事業が進められるなど、城下町ならではの地域特性を活かしたまちづくりが進められてきた地域です。

また、明治初期に誕生した高遠公園(高遠城址公園)は、長い歴史の中で桜の名所として多くの市民や観光客に親しまれてきました。桜もまた、高遠町地域にはじまり、伊那市全域にわたり、地域づくりの核となった歴史文化資源です。



(2) 区域内の歴史文化資源

歴史文化資源 〈歴史文化資源の類型〉	歴史文化資源が 存在する地域	歴史文化資源の概要
【市】鉾持神社本殿・赤門・透かし堀 〈有形・建造物〉	高遠町西高遠	城下の入口付近にあり、高遠城の守護神として代々領主の篤い信仰を受けた。拝殿内にある本殿は、江戸時代中期に建てられたもの。
【市】商家池上家 〈有形・建造物〉	高遠町西高遠	城下で醤油や酢の醸造販売、小間物販売などを行い、町役人も務めた池上家の住宅。2階建、切妻造りの町家建築。伊那市民俗資料館として公開されている。
旧中村家住宅 〈有形・建造物〉	高遠町西高遠	城下町の西の入口付近にある町家で、江戸時代中期頃に建てられたものとみられる。建物内に沢水が引き込まれている。
御行馬橋・弁財天橋・天女橋 〈有形・建造物〉	高遠町西高遠	高遠城下にある代表的な橋で、三峰川や藤沢川に架けられている。江戸時代から何度も架け替えられながら、現在も身近な橋として使われている。
読書楼 〈有形・建造物〉	高遠町西高遠	天保期(1830年～1843年)以前の江戸後期に建てられた中級武士住宅で、明治時代には私塾としても使われた。
【市】満光寺鐘楼門 〈有形・建造物〉	高遠町西高遠	高遠藩主内藤家の菩提寺・満光寺の山門で、上層には梵鐘が吊るされている。江戸時代中期に三河の大工、菅沼定次が手掛けた。
【市】満光寺阿弥陀如来立像 〈有形・彫刻〉	高遠町西高遠	満光寺の本尊は阿弥陀如来で、鎌倉時代の慶派の仏師による作と伝えられる。像高78cmで、江戸時代に京都の仏師の手により、修復されたと伝わる。
【市】五輪塔 保科左源太の墓石 〈有形・彫刻〉	高遠町西高遠	寛永4年(1627年)に亡くなった高遠藩主保科正光の養子、保科左源太の墓が満光寺墓地にある。笠が小さく、水輪は大きく太鼓型で、江戸時代初期の形式を伝えている。

歴史文化資源 〈歴史文化資源の類型〉	歴史文化資源が 存在する地域	歴史文化資源の概要
【国】紙本墨画中観音 左右竜虎図 〈有形・絵画〉	高遠町西高遠	建福寺に伝わる三幅対の大幅で、江戸時代の絵師、狩野興以が描いた墨絵。中央に観音菩薩、左右に竜図、虎図を配する。
【市】建福寺石仏群 〈有形・彫刻〉	高遠町西高遠	江戸時代中期に活躍した石工、守屋貞治が刻んだ石仏で、建福寺には最高傑作の願王地藏や西国三十三所観音などがある。
【市】建福寺仏足跡 〈有形・彫刻〉	高遠町西高遠	お釈迦様の足裏の形を刻んだもので、天保6年(1835年)に伊勢国金剛證寺のものを写し建てられた。
【市】建福寺文書 〈有形・古文書〉	高遠町西高遠	戦国時代から江戸時代初期の古文書14点が、2巻にまとめられている。武田勝頼が発給した文書には、寺の課役や周辺に住む人々の課役について記されている。
諏訪御料人の墓 〈記念物・遺跡〉	高遠町西高遠	武田晴信(信玄)の側室となって勝頼を産んだ諏訪氏の姫の墓。建福寺にあり、高遠城主時代の勝頼が法要を行ったと伝えられる。
【市】六角観音供養塔 〈有形・彫刻〉	高遠町西高遠	旧相頓寺の境内にある六観音の名号塔。延享4年(1747年)に水上村久左衛門が造った。
【市】路原拾葉 〈有形・典籍〉	高遠町西高遠 (かつては東高遠)	高遠藩の儒学者であった中村元恒、元起父子が編纂した地誌など、全150巻に及ぶ郷土文献の集大成で、高遠町図書館に所蔵されている。
【市】希月舎文庫 〈有形・典籍〉	高遠町西高遠 (かつては東高遠)	阪本天山や中村元恒、中村元起父子の自著や写本などで、506冊を数える。現在は高遠町図書館に所蔵されている。
【市】文献通考 〈有形・典籍〉	高遠町西高遠 (かつては東高遠)	古代から宋時代までの中国の法律や官制、経済、学校制度などを解説した書で、明から清時代に中国から輸入された漢籍。高遠町図書館に所蔵されている。
進徳図書 〈有形・典籍〉	高遠町西高遠 (かつては東高遠)	藩校進徳館で利用していた漢籍や和書、約6,300冊が高遠町図書館に収蔵されている。
池上家文書 〈有形・古文書〉	高遠町西高遠	商家池上家に伝わった江戸時代の文書群で、高遠藩の城下町政策や町方の状況が分かる好資料。高遠町図書館に収蔵されている。
内藤家文書等の武家文書 〈有形・古文書〉	高遠町西高遠 東高遠	内藤家文書は、高遠藩主内藤家に伝わった大名家文書で、高遠町図書館に収蔵されている。岩崎家資料や馬島家資料等の武家文書が高遠町図書館や高遠町歴史博物館に収蔵されているほか、地域にも多数の文書が伝わっている。
石工関係文書 〈有形・古文書〉	高遠町西高遠 東高遠	高遠町図書館所蔵の北原平蔵家資料の中には、石工たちが藩へ提出した文書が多く遺されている。また、高遠町歴史博物館では、守屋貞治が記した『石仏菩薩細工』や、『旅日記』を所蔵しており、高遠石工研究に利用されている。
【市】高遠ばやし 〈無形文化財・音楽〉	高遠町西高遠	鉾持神社の祭礼の際、町内を巡行するお囃子で、江戸時代から受け継がれている。町内ごとに演奏する曲目が異なる。
【市】仲町屋台 〈民俗・有形の民俗文化財〉	高遠町東高遠 (かつては西高遠)	鉾持神社の祭礼の際、町を練り歩く山車で、文政5年(1822年)に造られた。立川流の彫刻が施されている。現在は高遠町歴史博物館に展示されている。
二十二夜様のまつり 〈民俗・無形の民俗文化財〉	高遠町西高遠	島畑にある二十二夜様と呼ばれる石仏群は、江戸時代から月待信仰の対象となっており、今でも旧暦7月22日の夜にお祭りが行われている。
相生町枡形 〈記念物・遺跡〉	高遠町西高遠	城下町の南の出入口で、江戸時代末期に三峰川左岸に多町、相生町の2町が建設された際に設けられた。
町方十町の地名 〈地名〉	高遠町西高遠	城下には町方十町と呼ばれる10の町があり、江戸時代末期に2つの町が増えてからは12町となった。各町名は現在もそのまま使われている。
【国】高遠城跡 〈記念物・遺跡〉	高遠町東高遠	戦国時代の平山城で、高遠氏の城を武田信玄が改修した。江戸時代以降は高遠藩主の居城となった。
【県】高遠のコヒガンザクラ樹林 〈記念物・植物〉	高遠町東高遠	高遠城跡内に、タカトコヒガンザクラという同一種が、約1,500本の樹林を形成している。明治時代から植樹を繰り返し、現在の景観を生み出した。
【国】進徳館 〈記念物・遺跡〉	高遠町東高遠	城内三ノ丸に設けられた高遠藩校の建物遺構で、江戸時代の建物のうち、半分の規模が遺されている。
【国登録】高遠閣 〈有形・建造物〉	高遠町東高遠	昭和11年(1936年)、集会や休憩、宴会のための施設として、高遠城跡内に建てられた和風建築。

歴史文化資源 〈歴史文化資源の類型〉	歴史文化資源が 存在する地域	歴史文化資源の概要
【県】旧馬島家住宅 〈有形・建造物〉	高遠町東高遠	藩に仕えた眼科医の馬島氏の住宅で江戸時代後期の建築とされる。高遠藩の上位 30 人に入るクラスの武士住宅。伊那市民俗資料館として公開されている。
【市】東高遠諏訪社 〈有形・建造物〉	高遠町東高遠	一間社流造で、向拝と本殿の側面には、精巧な彫刻のある墓股が桁を支えている。桃山時代後期から江戸時代初期の建築様式を残している。
【市】中村不折筆 「卞和璞を抱いて泣く」 〈有形・絵画〉	高遠町東高遠	江戸で生まれ、両親の郷里で育った中村不折が、中国の故事を題材として描いた洋画の大作。信州高遠美術館に収蔵されている。
【市】池上秀畝 「薄暮落雁」・「古城驟雨」 〈有形・絵画〉	高遠町東高遠	池上秀畝の作品で信州高遠美術館に収蔵されている。「薄暮落雁」には暮れゆく芦辺と雁の風景が描かれ、「古城の驟雨」には周囲が白くなるほど強く打ち付ける雨の中に、青々とした樹々の合間を縫って飛ぶ白鷺が描かれている。
【市】樹林寺千手十一面夕顔 観世音菩薩立像 〈有形・彫刻〉	高遠町東高遠	樹林寺の本尊で、江戸時代初期の高遠藩主、保科正光の命を受けて造られた。夕顔の茎の上に立つ姿が特徴的。
【県】梵鐘 〈有形・工芸品〉	高遠町東高遠	織田信忠の軍が高遠城を攻めるために進軍してきた際、飯田の開善寺から奪い、引きずってきた鐘。桂泉院に伝わる。
【市】准胎観世音 延命地藏尊 〈有形・彫刻〉	高遠町東高遠	桂泉院の参道両脇にある守屋貞治作の石仏。文政 3 年(1820 年)に造られた。山門から境内に向かって右が准胎観世音、左が延命地藏尊。
【市】五聖像 〈有形・彫刻〉	高遠町東高遠	進徳館には、儒学の祖である孔子と 4 名の弟子を祀る聖廟があり、領内の村人が献上した五聖像が祀られていた。現在は高遠町歴史博物館に展示されている。
【市】阪本天山の筆跡 〈有形・書跡〉	高遠町東高遠	高遠藩学の祖といわれる儒学者であり砲術家の阪本天山が、高遠を離れる際に書いた詩。高遠町歴史博物館に所蔵されている。
【市】田山花袋筆屏風 〈有形・書跡〉	高遠町東高遠	大正時代、絵島の墓を探すために高遠を訪れた田山花袋が、道中で読んだ歌が書かれている。高遠町歴史博物館に所蔵されている。
石破元祖之巻 〈有形・古文書〉	高遠町東高遠	高遠石工の職業由来を記した免許状で、源頼朝に認められたと語られている。高遠石工はこの由来書を示しながら活動していた。
【市】高藩探勝 〈有形・歴史資料〉	高遠町東高遠	高遠藩主に献上するため、寛保 3 年(1743 年)に作られた絵巻で、領内 52 か所の名所や人々の生活風景が描かれている。高遠町歴史博物館の所蔵資料。
高遠城絵図 〈有形・歴史資料〉	高遠町東高遠 ほか	江戸時代の高遠城や周辺の武家屋敷を描いた絵図は、写しも含めて 100 点以上伝わっている。高遠町歴史博物館では、複数の高遠城図を展示公開している。
絵島囲み屋敷 〈記念物・遺跡〉	高遠町東高遠	江戸城大奥の老中で、風紀を乱したとして罪に問われ、高遠藩内藤家の預かりとなった絵島が囲われていた建物を、絵図を元に復元したものの。
【市】伊澤修二生家 〈記念物・遺跡〉	高遠町東高遠	進徳館で学んだ後、東京やアメリカで学び、音楽教育をはじめとする近代教育の基礎を作った伊澤修二の生家。下級武士の住宅の間取りをよく示している。
峰山寺烏居氏の墓 〈記念物・遺跡〉	高遠町東高遠	高遠城を見下ろす位置にある峰山寺の境内墓地には、江戸時代初期の高遠藩主烏居忠春と、忠春の母の墓である大型の五輪塔がある。
進徳の森 〈記念物・植物〉	高遠町東高遠	進徳館で学び、ドイツへ留学して林学を極めた中村弥六が、外国産の樹を峰山寺墓地の裏山に植え、森を造った。林業遺産に認定されている。
「胸ヶ窪」 〈地名〉	高遠町東高遠	月蔵山の後ろの山にあり、高遠城の戦いの際に、地域の人たちが逃げ隠れた場所と伝えられる。
孤軍高遠城 〈無形文化財〉	高遠町西高遠 東高遠	昭和 41 年(1966 年)、高遠城落城の思いを伝えたいという高遠町の人々の願いにより作られた曲で、舞踊として親しまれている。
高遠そば 〈民俗・無形の民俗文化財・食文化〉	高遠町西高遠 東高遠 ほか	江戸時代、毎年将軍に献上された高遠そばは、辛味大根のおろし汁と焼味噌で食べるのが高遠流。江戸時代初期の高遠藩主保科正之が会津にも伝えた。
庚申塔 〈有形・石造文化財〉	高遠町西高遠 東高遠 ほか	民間信仰の 1 つ、庚申信仰に関わるもので、庚申の年に石塔を建て、村の安全を祈った。各集落の村境や辻に建てられている。

(3)保存・活用の課題

高遠町地域は過疎^{かそ}地域に指定されており、年少人口と生産年齢人口が減少する一方で、高齢人口が増加しており、地域内に数多く存在する歴史文化資源の保存や将来への継承が課題となっています。

区域内の中心的な文化財である高遠城跡^{たかとおじょうせき}は、国史跡指定から50年を経過しましたが、指定範囲内に長野県天然記念物「高遠のコヒガンザクラ樹林」が存在しており、城郭として分かりやすい遺構整備が進んでいません。遺構の保護とともに、市民や訪れた人が高遠城跡の文化財価値を理解できるような取組が求められています。

伊那市立高遠町図書館や伊那市立高遠町歴史博物館などの施設に大量に収蔵されている古文書の活用を望む声がありますが、解読できる人が少なく、難しいというイメージが強いため、愛好者など一部の人々による活用に留まっています。市民全体の財産として、裾野の広い活用が求められています。

また、桜の名所として、かつては4月の観桜期に約40万人が訪れた高遠城跡も、近年の入園者は約10～15万人で推移しており、桜による誘客は頭打ちになっています。史跡指定地の保存は言うまでもなく、周辺地域の歴史環境も一体的に保存し、地域内に立地する伊那市立高遠町歴史博物館や信州高遠美術館、伊那市民俗資料館などを中心に、歴史的背景を活かした新たな地域資源の発信や観光振興にも取り組む必要があります。



たかとおじょうせき
高遠城跡二ノ丸の土塁と堀

(4)保存・活用の方針

・高遠城跡の計画的な整備・活用

地域形成の中核となった国史跡高遠城跡の保存活用計画、整備計画を策定し、計画的な整備と保存・活用を進めます。

・歴史文化発信拠点施設の充実・市民と一体となった取組

歴史文化を発信する施設として、博物館施設(伊那市立高遠町歴史博物館、信州高遠美術館、伊那市民俗資料館)の機能を充実させ、特に伊那市立高遠町歴史博物館を拠点施設として活用します。

講座などを通して育成した博物館サポーターやボランティア団体と連携しながら、歴史文化資源の公開展示、普及活動に取り組みます。

・自然や観光と融合した歴史文化資源の活用

高遠城跡内の県天然記念物「高遠のコヒガンザクラ樹林」の全国的な知名度を活かし、積極的な広報周知や魅力的な誘導策を展開することで、より多くの人々が地域内の歴史文化に触れる機会を創出します。



ボランティアガイドによる
史跡案内の様子



うちほり
高遠城跡内堀から見る
満開の桜

・デジタル技術を取り入れた保存と活用

文化財地図などで歴史文化資源の位置や内容を明らかにし、AR(拡張現実)^{かくちようげんじつ}・VR(仮想現実)^{かそうげんじつ}などのデジタル技術を積極的に取り入れながら、観光施策と連携した活用を図ります。

地域内の歴史文化資源の保存・活用を進めるため、デジタルアーカイブ化事業を進めます。

・高遠石工^{たかとおいしく}や石造文化財に関わる調査・活用・保存

高遠石工のふるさととして、高遠石工に関する情報を広く集めて発信するとともに、所有者や地域住民との協働により、維持管理・継承ができるよう努めます。

・寺社や無形文化財の保存・継承とコミュニティの活性化

寺社の継続的な維持管理や保存・活用の方法を検討するとともに、寺社の祭礼に伴う「高遠ばやし」などの無形文化財を、保存団体や地域の学校と連携しながら保存・継承に努め、地域コミュニティの活性化を図ります。

・公共施設での古文書の保存と活用

地域に伝わる古文書を収集し、多くの人が古文書を活用しやすい環境を整えるため、伊那市立高遠町図書館や伊那市立高遠町歴史博物館に収蔵されている古文書の整理やデジタル化、解読を進めます。また史料を題材にした魅力的な事業を企画実施するなど、活用につなげます。



ボランティアによる
古文書整理の様子

(5) 区域内の保存・活用に関する措置

番号	事業項目	事業内容	新規 継続 の別	計画期間			取組主体				主な 財源
				前期 R 7 5 10	中期 R 11 5 13	後期 R 14 5 16	市民・ 所有 者	企 業・ 団 体	教 育 研 究	行 政	
高遠 1 (措置 9 再掲)	高遠石工調査	市内外を問わず、高遠石工に関わる資料や石造物の把握を進める。	継続				○	○	◎ 教生	市費 団体費	
高遠 2 (措置10 再掲)	史跡高遠城跡遺構確認調査	史跡高遠城跡の整備事業の一環として、遺構確認調査を実施する。	新規						◎ 教生	国費 県費 市費	
高遠 3	古文書整理ボランティア活動	ボランティアにより、伊那市立高遠町図書館及び伊那市立高遠町歴史博物館収蔵の古文書の整理作業を進める。	継続				◎		○ 教生	団体等	
高遠 4 (措置27 再掲)	史跡高遠城跡整備事業	保存活用計画の策定、藩校進徳館修理、公有地化の推進などを実施する。	継続						◎ 教生	国費 県費 市費	
高遠 5	東高遠武家屋敷地区の歴史景観の保全	武家屋敷エリアを埋蔵文化財包蔵地に指定し、遺跡として保護を図る。	新規				○		◎ 教生	市費	
高遠 6	初級古文書教室の開催	伊那市立高遠町歴史博物館や伊那市立高遠町図書館において、古文書を読みたい入門者を対象とした講座を実施し、新たな解読者を育てていく。	継続				○	○	◎ 教生	市費	

番号	事業項目	事業内容	新規 継続 の別	計画期間			取組主体				主 な 財 源
				前 期 R 7 S 10	中 期 R 11 S 13	後 期 R 14 S 16	市 民 ・ 所 有 者	企 業 ・ 団 体	教 育 研 究	行 政	
高遠 7	高遠さくら祭り、もみじまつり	国史跡高遠城跡及び県指定天然記念物高遠のコヒガンザクラ樹林を活かした季節的イベントを実施し、地域への誘客促進を図る。	継続				○	○		◎ 商 観	市費 個人
高遠 8	史跡案内ガイド、 観光ガイドの活動支援	史跡案内ガイド「ふきのとう」や観光案内ガイド「いーなガイドの会」の活動に必要な資料や、場所の提供を行う。	継続					○		◎ 教 生	市費
高遠 9 (措置56 再掲)	古文書保存活用事業	古文書などの文献史料のデジタル化(撮影・書誌情報のデータベース化)を行い、AI解読ワークショップや古文書を題材に使ったイベントを行うなど活用を図る。	継続				○	○	○	◎ 教 生	企業 市費
高遠10	V R 高遠城の戦いの公開	V R(仮想現実)を用いて戦国時代の高遠城の戦いを追体験できるようにする。	継続				○			◎ 教 生	市費
高遠11	スマホ・タブレット用アプリ 「高遠ぶらり」の活用	古地図と現在地をリンクさせたスマホ、タブレット用アプリ「高遠ぶらり」利用し、多くの人に高遠城や周辺の歴史散策を楽しんでもらえるようにする。	継続				○	◎		○ 教 生	団体等

(本表は、第7章に掲載した措置のうち、関連するものの再掲を含みます。再掲した措置は、第7章の措置番号とともに整理しています。)

4 長谷地域の保存活用重点区域

なか お
中尾地区

(1) 区域の概要

総面積の 96%が森林と原野を占める長谷地域には、九州と本州を大きく二分する大断層、中央構造線が南北に通っています。南アルプス一帯は、かつての海底が隆起^{りゅうき}し山脈となったことで、貴重な地層や地形が見られ、そこで生まれた歴史や独自の文化が評価され、「南アルプスユネスコエコパーク」、「南アルプス(中央構造線エリア)ジオパーク」に認定されていますが、その中央構造線の谷が、古くから人々の行き交う道となり、後に東海地方と諏訪を結ぶ「秋葉街道^{あきはかいどう}」となりました。縄文時代、塩や黒曜石が行き来したこの道沿いには大規模な集落が営まれ、発掘調査により「大形把手付土器^{おおがたとつてつきどき}」など長野県宝 3 点を含む縄文土器が出土しています。また、江戸時代になると秋葉参り^{あきはまい}の人々で街道沿いは賑わい、多くの歴史文化資源が育まれました。



この長谷地域の「秋葉街道」沿いにある中尾地区
には、農村歌舞伎である「^{なか}^お^か^ぶ^き中尾歌舞伎」が伝わって

います。明和4年(1767年)、旅役者の一座が上中尾の山の神様を祀^{まつ}ってある神社の前宮で演じたのが始まりと言われ、その歌舞伎を真^{まね}似て村人たちが行うようになりました。農村での娯楽として受け継がれてきた中尾歌舞伎ですが、太平洋戦争を機に公演を中断します。それから約40年後の昭和61年(1986年)、中尾地区の青年たちが地元のお年寄りから指導を受けて復活させ、中尾歌舞伎保存会としての活動が始まり、現在に至ります。

(2) 区域内の歴史文化資源

歴史文化資源 〈歴史文化資源の類型〉	歴史文化資源が 存在する地域	歴史文化資源の概要
【市】中尾歌舞伎 〈民俗・無形の民俗文化財〉	長谷中尾	江戸時代、旅芸人が伝えた歌舞伎を真似て、村人たちが行うようになった農村歌舞伎。
六歌仙の引き幕 〈民俗・有形の民俗文化財〉	長谷中尾	中尾歌舞伎に現存する、江戸時代の慶応元年(1865 年)から伝わる六歌仙の引き幕。
【市】中尾辻の石仏群 〈有形・石造文化財〉	長谷中尾	道祖神や庚申塔など約 30 基の石造物が集中している。馬頭観音や丸石道祖神、蚕玉神、佐倉宗五郎霊神などもある信仰の場。
中尾の神明社 〈有形・建造物〉	長谷中尾	長谷の他の地区では諏訪社を祀っているが、中尾地区だけは伊勢の神明宮より鎮守に移し、勧請した神明社を祀っている。
秋葉街道 〈記念物・遺跡〉	長谷中尾	古来より、様々な文化が運ばれてきた街道。中尾歌舞伎は、この秋葉街道を通った旅役者が歌舞伎を演じたことから始まった。

(3) 保存・活用の課題

長谷地域も過疎地域に指定されており、高齢化や人口減に伴う担い手不足から、地域内に数多く存在する歴史文化資源の保存や将来への継承が課題となっています。

昭和 61 年に復活した中尾歌舞伎ですが、平成 28 年(2016 年) 2 月から平成 30 年(2018 年) 4 月までの 1 年半、保存会の人手不足などの理由で再び活動を休止した経過があります。



なかおかぶき
中尾歌舞伎に
参加する小学生

(4) 保存・活用の方針

・活動継続のための取組

「中尾歌舞伎」の再開や地元の中学生在がファンクラブを作るなど、次世代を巻き込んだ活動が展開されています。平成 30 年(2018 年) 7 月に、保存会の活動を支援する信州伊那中尾歌舞伎後援会が設立されました。今後もこの活動を継続させるため、後継者の育成について、保存会や後援会とともに検討していきます。

・情報発信

長谷公民館や南アルプス長谷ビジターセンターなどを利用してパネル展示を行い、市内外に広く情報を発信します。



中尾歌舞伎
化粧体験講座の様子

・公演のインターネット配信

道の駅南アルプスむら長谷、公民館などでのライブビューイング、YouTube など動画共有プラットフォームによる配信など、会場以外でも積極的に公開し、ファンを増やしていきます。

・関連する歴史文化資源や道具の活用

中尾歌舞伎に現存する江戸時代の慶応元年(1865 年)から伝わる六歌仙の引き幕や衣装、楽器、化粧道具などを展示・体験ツアーなどに積極的に活用していきます。また、周辺の歴史文化資源なども組み込んで、歌舞伎とその周辺も活用の場としていきます。

・農村歌舞伎を通じた他市町村との連携

他市町村の農村歌舞伎団体と交流を図ることで、情報交換や情報発信を行い、活動の一助としてもらいます。



中尾に伝わる六歌仙の引き幕

(5) 区域内の保存・活用に関する措置

番号	事業項目	事業内容	新規 継続 の別	計画期間			取組主体				主な 財源
				前期 R 7 5 10	中期 R 11 5 13	後期 R 14 5 16	市民・ 所有 者	企 業 ・ 団 体	教 育 研 究	行 政	
長谷 1	中尾歌舞伎の公開中継	中尾歌舞伎について、モバイル公民館によるパブリックビューイングを実施し、遠隔地でも観覧ができるようにする。	継続					◎		○ 教生	市費
長谷 2	中尾歌舞伎のパネル展示実施	南アルプス長谷ビジターセンターや長谷公民館において、中尾歌舞伎のパネル展示を行い、多くの人にその魅力を伝える。	新規					○		◎ 教生	市費
長谷 3	中尾歌舞伎定期公演の開催	地元の子ども達が興味を持って参加できる企画を取り入れながら、中尾座等を活用して定期的な公演を行い、確実に後世へ伝えていく。	継続				○	◎			団体等
長谷 4	中尾歌舞伎体験講座の開催	中尾歌舞伎の魅力や公演を支える技を多くの人に伝えるため、歌舞伎の化粧体験などを開催し、観光ツアーに組み込む。	継続				○	◎		○ 教生	国費 市費 団体等
長谷 5	中尾歌舞伎定期公演への中学生参加	長谷中学校生徒たちが、演者や会場運営のサポーターとして、中尾歌舞伎定期公演の開催に参加する。	継続					○	◎		市費